

## 山崎邦郎先生のメモリアルセレモニーに参加して

高砂香料工業(株) 研究開発本部

江村 誠

去る 10 月 10 日、故山崎邦郎先生を偲ぶ会が、モネルセンター(Monell Chemical Senses Center)にて開催されました。モネルセンターの先生方、スタッフの方々だけでなく、スローンケタリング癌研究所時代の同僚、大学関係者やアサヒビール、味の素、小川香料、花王、キリン、サントリー、日本たばこ産業、雪印メグミルク等の日本の企業の方々など、山崎先生を偲ぶ大勢の方々が集まりました。

モネルセンターのあるフィラデルフィアはクエーカー教徒が多いことで知られますが、その礼拝形式に因み、集まった一人ひとりが山崎先生との思い出を語りました。先ず、モネルセンターの Dr. Gary Beauchamp 所長のスピーチから始まりました。Beauchamp 所長は山崎先生をスローンケタリング癌研究所からリクルートして来た当人であり、以来 30 余年に渡る共同研究者であり、また家族ぐるみでお付き合いなされたご友人でもあります。追悼式に集まった人々のなかで、おそらく山崎先生のことを最もよく知る Beauchamp 所長が、悲しみを堪えながら山崎先生のご経歴と先生との思い出を語られました。また、山崎先生のスローンケタリング癌研究所時代の同僚である Dr. Judith Bard、モネルセンターで共同研究を行って来られた Dr. George Preti や Dr. Charles Wysocki、北海道医療大学の長田和実先生、マウスを用いた行動実験を担当されていた Maryanne Opiekun 女史、鳥居食情報調節研究所の鳥居邦夫先生、またモネルセンターにて山崎先生にご鞭撻をいただいた日本の企業の方々などが、生前の山崎先生の優しいお人柄を偲ぶとともに、惜別の思いを語り、山崎先生の奥様、お嬢様もご同席のもと、参加した全員で悲しみを分かち合いました。モネルセンターを介して親しくなった仲間達と久しぶりに再会する機会でしたが、残念ながらそこに山崎先生のお姿はなく、当日の雨が寂しさを一層募らせました。

先生は、ご逝去された当日も研究の現場に立たれておられ、Beauchamp 所長とも研究の進捗やこれからの実験についてディスカッションされたそうです。嗅覚研究の中でも最も困難とも言える個体識別機構の解明に生涯をかけて挑み続けてこられた先生の志(こころざし)や研究に立ち向かう姿勢を記憶に留め、化学感覚研究に携わるの方々にお伝えすることが、参加した全員の使命であると戒められた追悼式でした。

改めてご冥福をお祈り申し上げます。

モネルセンターでは、Kunio Yamazaki Distinguished Lectureship 基金の募集を行っております。詳細は、<http://www.monell.org/faculty/people/yamazaki> にて。